

2020年3月期の業績について

■ 損益の状況

2020年3月期連結決算において、有価証券利息配当金の減少等を要因とする資金運用収益の前期比9億円減少や役員取引等収益の前期比3億円減少、金融派生商品収益の減少等を要因とするその他業務収益の前期比25億円減少等により、経常収益は前期比57億円減少して543億円となりました。

また、預金利息の減少等を要因とする資金調達費用の前期比11億円減少、国債等債券売却損の減少等を要因とするその他業務費用の前期比15億円減少、前期の貸倒引当金繰入額8億円

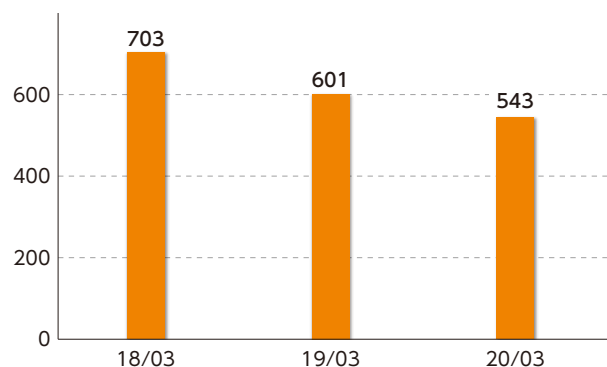
計上および株式等売却損10億円計上等により、経常費用は前期比50億円減少して444億円となりました。

以上により、経常利益は前期比7億円減少し、99億円となりました。

税金等調整前当期純利益は、固定資産処分益31億円計上等により、前期比25億円増加し、129億円となりました。法人税等合計が前期比15億円増加したものの、親会社株主に帰属する当期純利益は前期比9億円増加し、89億円となりました。

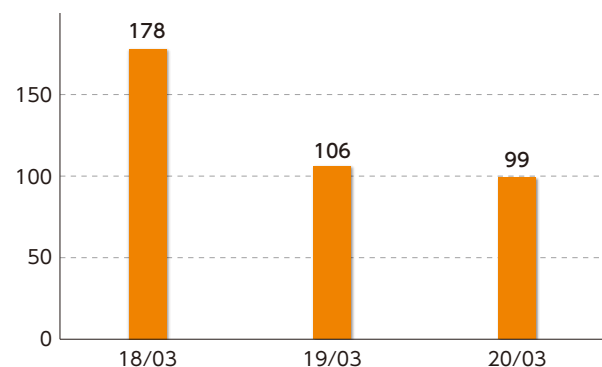
経常収益(連結)

(億円)



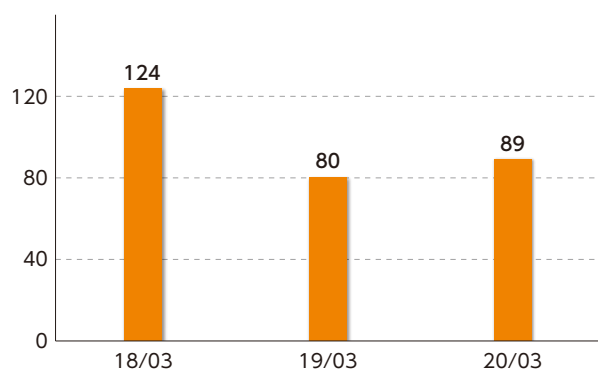
経常利益(連結)

(億円)



親会社株主に帰属する当期純利益(連結)

(億円)

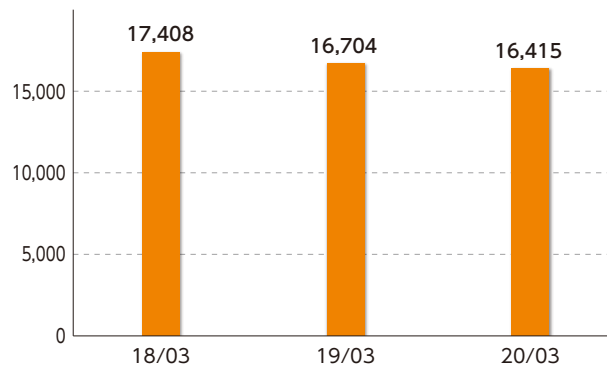


■ 財政の状況

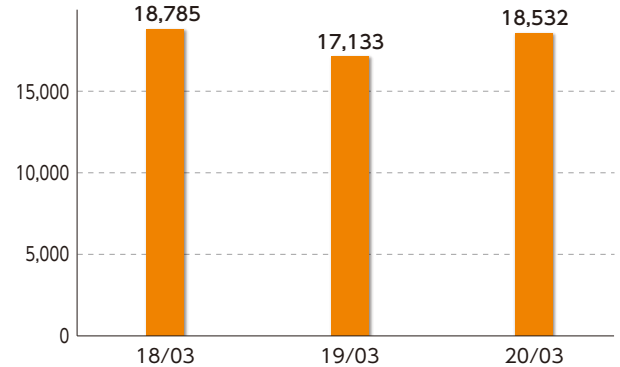
2020年3月期において、貸出金の当期末残高は、前期末比1.7%減少し、1兆6,415億円となりました。
有価証券については、前期末比4.5%減少し、当期末残高は2,209億円となりました。

預金残高は、前期末比8.1%増加し、当期末残高は1兆8,532億円となりました。

貸出金残高(連結) (億円)



預金残高(連結) (億円)



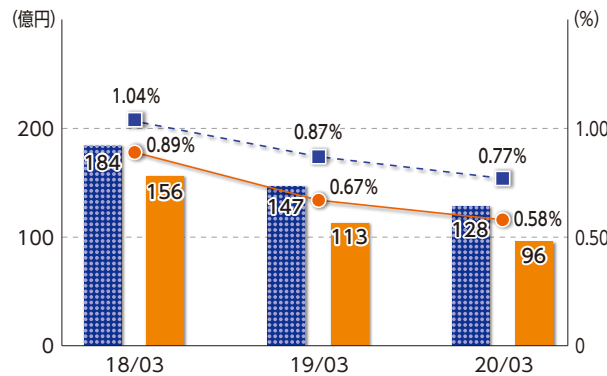
■ 不良債権比率

2020年3月期末現在における金融再生法開示債権比率(いわゆる不良債権比率)は、部分直接償却*を実施しなかった場合には前期末比0.10%改善し0.77%、部分直接償却を行った場合には前期末比0.09%改善し0.58%となり、低い水準を維持しています。

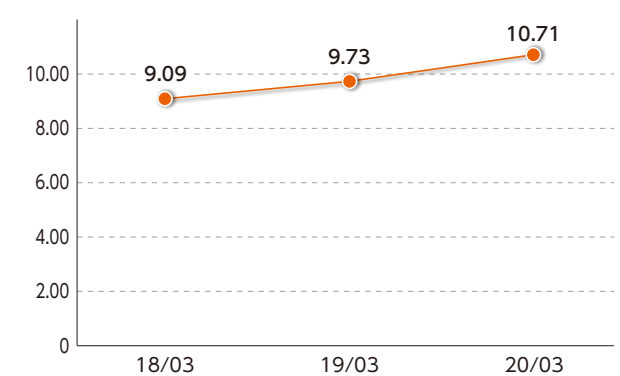
■ 自己資本比率

2020年3月期末の連結自己資本比率は10.71%となりました。当行ならびに当行グループは、国内業務のみを営む金融機関として、金融庁の告示に基づき4%の自己資本比率を維持することが求められておりますが、その基準を大幅に上回り、健全な水準を維持しています。

不良債権残高・比率(連結) (億円、%)



自己資本比率(国内基準、連結) (%)



部分直接償却*を実施しなかった場合 部分直接償却*を実施した場合
 不良債権比率 不良債権残高 不良債権比率 不良債権残高

*部分直接償却とは
破綻先および実質破綻先に対する担保・保証付債権等について、資産の自己査定基準に基づき、債権額から担保の評価額および保証による回収が可能と認められる額を控除した残額を取立不能見込額として債権額から直接減額する会計処理のことをいいます。